



# ときまわまつ

卒業

校長 加藤 真寿美

厳しい冬の寒さから新たに草木が芽吹く春三月。弥生の月を迎え、今年度も最後のひと月となりました。いよいよ卒業の季節となります。

卒業と聞くと、六年生の卒業式を思い浮かべると思います。もちろん六年生の卒業は、特別です。小学校生活を終え、中学に向かう区切りでもあり、小学校最大の行事となります。これまでの最上級生としての行動を振り返り、三月二十四日の卒業式は、心からよい式になるよう臨んでほしいと思っています。

しかし、他の学年もまた、今の学年を卒業し、次の学年に進級します。一年生は二年生になり、初めての弟や妹が入学してきます。お兄さん・お姉さんになります。二年生は三年生になり、新しい学習が始まります。三年生は四年生にな

り、クラブ活動が待っています。もう高学年の仲間入りです。

そして、四年生は五年生へ。五年生は六年生へ。常磐松小学校を支える高学年になります。新六年生を中心とした高学年が、これからの常磐松小学校をよりよい学校としていく原動力となります。責任感もちりりダーシップを発揮し、低学年の子たちの手本となっ

てほしいです。高学年の行動は、教職員の「くしまししょう」の指導の言葉より、何倍も子供たちの心を動かします。そのことを胸に刻んで、学校生活を送ってほしいと期待しています。

さあ、卒業へのカウントダウンが始まります。子供たちは、現在の学年を卒業します。今年度のま

終わりになりますが、PTA会長

田村康雄様をはじめ役員・各種委員会委員長の皆様・そして会員の皆様

には、『つながりを大切に、子供たちと たくさんの思い出を作ろう』のスローガンのもと、様々な場面で

学校生活を支えていただきました。感染防止対策を講じながらの学校

生活の中、明るく楽しく、前向きに活動をしてくださいました。昨年度

は実施することができなかった演劇教室も、感染防止対策に配慮し、

工夫をしながら行っていたいただき「子供たちを笑顔にしたい」という

思いが伝わり、感謝の思いでいっぱい。ありがとうございます。

また、地域の皆様には、子供たちや学校の様子を気にかけていただき

ました。今年度も、学校に来ていただく機会を設定することが難しく、直接交流する機会が限られていたことを、とても残念に思っています。

地域の皆様に見守られているという感謝の思いは、子供たち・教職員共によりっかり持ち続けていたい

新年度に向けて

学校評価アンケートに御協力をいただき、ありがとうございます。

現在学校では、全校児童が充実した学校生活を送れるよう、新年度に向けての準備を進めているところです。新年度の計画・作成に当たっては、教職員で今年度の取組を自己評価した結果や保護者・地域の皆様に御協力いただいたアンケート結果を参考にしています。

アンケート結果につきましては、全二十項目中十三項目で肯定的評価が八割以上に到達しており、一定の教育効果は得られていると言えますが、課題が明確になる項目もありました。特に、「分からない」の割合が高かった「デジタルシティズンシップ教育」「シブヤ科」については、更なる周知方法を検討いたします。次年度に向けて自分たちの取組を見つめなおし、改善につなげていきたいと考えています。

「成長する学校」を目指して、更なる学校力の向上に向けて、全教職員で力を合わせ真摯に取り組んでまいります。来年度も変わらぬ御支援と御協力をお願い申し上げます。

この一年間、本校の様々な教育活動に御理解と御協力をいただき、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

\*アンケート結果は、ホーム&スクールで配信しています。御確認ください。



# 鼓笛移杖式

二月十八日（土）

穏やかな晴天の中、移杖式が行われました。今年一年間取り組んできた曲を順に披露した後、六年生から五年生へ指揮杖が、四年生へ楽器が、三年生へユニフォームがそれぞれ受け渡されました。各学年の代表の言葉には、六年生への感謝や、新たな鼓笛隊への決意などがこめられていました。一・二・三年生は、鼓笛隊の演奏や受け渡しの様子を真剣に見つめていました。

最後に、これまで鼓笛隊のリーダーとして頑張ってきた六年生を、新鼓笛隊の演奏で送りました。地域の方々やたくさんさんの保護者に見守られ、今年もまた、常磐松小の伝統が確かに引き継がれました。



# 六年生を送る会

二月二十四日（金）

今年の「六年生を送る会」は、三年ぶりに全校児童が体育館に集い六年生の門出をお祝いすることができました。一年生から五年生は、劇やクイズ、ダンスなどで六年生に感謝の気持ちを伝えました。どの学年も大好きな六年生との思い出を振り返り、温かい発表になりました。また、六年生からは演奏披露や卒業制作・手作りプレゼントの紹介がありました。チームワークの良さが分かる、心のこもった演奏でした。司会進行などを行った代表委員会の児童の様子からは、「これから六年生に代わって学校を引っ張っていくんだ」という頼もしさが感じられました。



## いじめについて⑥

年間を通して、学校は、いじめの定義を踏まえ、被害の子供の心情の側に立ち、どの学校、どの子供にもいじめは起こり得るという認識をもって、いじめ問題に取り組んでいることを述べさせていただきました。今回は、いじめに関して、具体例をもとに保護者の皆様に一緒に考えていただければと思います。

### 【事態の具体例】

- ① 児童B、C、Dから、児童Aは下校中に冷やかしの言葉を浴びせられた。
- ② 児童Aはその日の夜、出来事をAの保護者に伝えた。

☆児童Aの保護者として、どのような行動をとりますか。

☆児童B、C、Dの保護者として、どのような行動をとりますか？

おそらく、これが正解、というものはありません。

しかし、東京都いじめ防止対策推進基本方針には、保護者は、その保護する児童・生徒がいじめを行うことのないよう、家庭での話し合い等を通して、規範意識を養う指導などに努めるとともに、児童・生徒をいじめから保護するということが示されています。

また、いじめの情報を得た場合には、学校に速やかに連絡、相談するなど、学校によるいじめの防止等の取組に協力するよう努めるということが示されています。

お子さんの性格、成長段階、その時の状態によって、最善の方法は変わってくると思います。常にお子さんとコミュニケーションを取りながら、最善の方法については今後もお考えいただければと思います。

最後に、今回の内容とお考えになったことについて、ぜひお子さんと話し合っただけだと思えます。御自分は、いじめられていたら、どのような行動をとるか、いじめていたら、どのような行動をとるか。皆さんのお考えを、お子さんに伝え、お子さんの考えを聞くことで、お互いのいじめに対する考えが、より深まっていくと思います。もしかしたら、思いがけない話を聞くこともあるかもしれません。

これからいじめの防止、早期発見、早期対応に向けて、学校・地域・保護者が一体となって、取り組んでいきたいと思えます。

■ 三月の生活目標  
■ 一年間の学習や生活を振り返ろう

■ すこやか目標 ■  
■ 一年間の生活を振り返ろう

今年度もいよいよあとひと月になりました。

今年度も常磐松の子供たちが、日々の学校での学習や友達との関わりを通して、しっかりと確実に成長していることは、何よりも大きな喜びを私たちに感じさせてくれます。

これからも子供たち一人一人の中にある温かい心や優しい思いが、態度や行動として現れるよう、子供たちの様子を多くの目で見守り、促しの声をかけたり、よい行動を褒めたり、自分の行動について振り返りさせたりしていきたいと思えます。

## 特別支援教室「ゆずりは」 ◆ 運動・体幹 ◆

運動することは体の健康を維持するために必要です。成長過程では、特に姿勢や書字などにも密接に関係してきます。

今回は『運動と体幹』について紹介します。体幹とは、頭部と手足を除く胴体のことを指します。体幹の力が弱ければ、頭や上半身をまっすぐに支えられず、姿勢を正しく保つことが難しいと言われています。

### バランスボール



ゆずりは教室では、体幹トレーニングカードを活用し、スモールステップでレベルアップできるように工夫しています。例えば、バランスボールに座り、安定のとれる体の感覚を自分で見つけ、落ち着いた後に両足を離す活動があります。初めの頃は教員の手や、壁を支えにしながらバランスを保っていた子供たちも、経験を重ねていくうちに両手両足を離しても、自分でバランスがとれるようになっていきます。さらに、タイムを計ることにより、自分で目標をもち、主体的に活動に取り組もうとする姿も見られます。体幹の力を高めることで、姿勢が良くなり、書字の安定につながると思えます。これからは、様々なアプローチを通して、子供たちの「できた！」や、自信につなげていけるように応援していきます。



直通電話 ○三三六六六一〇八  
ゆずりは教室 担任 朝倉 美紀